

米子市立山陰歴史館

歴史館だより

2026.1.18 第16号



歴史館のマスコットキャラクター
れきくん しーちゃん かんくん

企画展「山陰歴史館から出発進行」

～資料でたどる旅の記憶～



会期：令和8年1月18日(日)～3月29日(日)
開館時間：午前9時半～18時

(17時半が最終入館時間です)

休館日：毎週火曜日

会場：米子市立山陰歴史館1階 第1展示室

観覧料：一般・300円

15名以上の団体1名250円※70歳以上、大学生以下、障がいのある方(介護者1名含)は無料

主催：米子市・米子市教育委員会・(一財)米子市文化財団米子市立山陰歴史館

特別協力：西日本旅客鉄道株式会社山陰支社

協力：倉吉博物館、公益財団法人交通文化振興財団 交通資料調査センター、鉄道の街米子・米子の鉄市実行委員会、鳥取市歴史博物館

かつての日本国有鉄道(国鉄)は、公式に米子を含む12の「鉄道の町」を認定していました。「鉄道の町」とは、そこに鉄道駅や鉄道に関する施設が置かれたことで大きく発展した町を指す言葉です。私たちが暮らす米子も、明治35年(1902)に、山陰初の鉄道が境(現在の境港)―米子―御来屋間に開通してから、敷設工事の指揮を執る鉄道作業局(後の鉄道管理局)が置かれ、「鉄道の町」として発展してきました。

鉄道の開通は、人々の暮らしや産業、まちづくりなどに様々な影響を与えました。「旅」もその一つに挙げられます。近世までは街道を歩いて旅をしていた人々は、鉄道の開通によって、より遠方へ気軽に旅行できるようになりました。鉄道は、「旅」を気楽に楽しめる「観光」へと変えたとも言えます。

本展では、当館の主要コレクションの一つである、鉄道資料の中から切符や写真、観光パンフレット、駅弁包み紙などを展示し、鉄道での旅の歴史を紹介します。

【関連事業】※詳細はホームページ等をご確認ください

●鉄道模型「Nゲージ展示運転・操作体験」

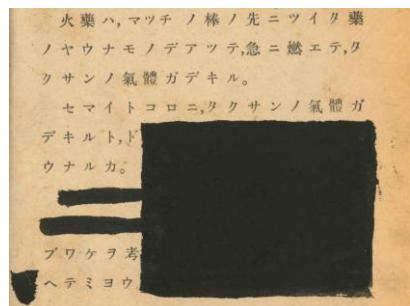
会期中複数日実施

●鉄道クイズラリー

企画展展示資料を見ながら、クイズに答えて正解した方には、オリジナルグッズをプレゼントします！※関連事業に参加するにはいずれも要企画展観覧料

寄贈資料紹介 「黒塗り教科書」

歴史館には明治時代から昭和初期までの学校で使われた教科書を数多く収蔵しています。この中に終戦後に行われた、いわゆる黒塗りの教科書があります。何が黒塗りされているのかわからないものが多いのですが、黒塗りのされていない同じ教科書と比較することで、黒塗りの対象が何であったのかがわかります。右は現在の南部町の方から寄贈を受けた国民学校初等科理科二の教科書(昭和18年2月13日翻刻発行)です。マッチを説明する項目の中で火薬について触れた行の「大砲や鐵砲ノ飛 ブワケヲ考エテミヨウ」の下線部分と、戦艦が大砲を発射する写真が黒塗りされているのがわかります。その他、兵士による測候、神職の火おこし、兵士の潜水、掲揚された日の丸、観測気球など12ページに黒塗りがあり、戦意高揚や軍事に関わる可能性があるものが黒塗りの対象となったことがわかります。



企画展「平成生まれは知らない！？昭和の米子」関連事業 THE SHOWA（昭和）建物巡りツアー

昭和100年記念の企画展「平成生まれは知らない！？昭和の米子」(会期：9月28日(日)～12月28日(日))の関連事業として、10月26日(日)に「THE SHOWA（昭和）建物巡りツアー」を開催しました。参加者14名と一緒に、山陰歴史館 中原館長の解説付きで、米子旧市街地の昭和の建物や小路などを巡りました。山陰歴史館をスタートして外堀通りを歩き、専門大店ビルの外観や、旧山陰合同銀行米子東支店内（現 DARAZ CREATE BOX）の金庫などを見学。そこから本通り商店街を西へ行き、旧米子角盤郵便局（現 YORAIYA 角盤）で休憩した後、心光寺を見学して、山陰歴史館まで帰りました。

道中では、昭和の面影を残す建物と町並みが、当時の賑わいや暮らしの様子を映しています。なかでも担当者が注目したのは、旧山陰合同銀行米子東支店の東側出入口付近にある「石炭投入口」です。店内地下には昭和34年(1959)建築当初に設置された大型ボイラー[(株)前田鉄工所製]が現存しています。石炭投入口から、ボイラーに直接石炭を投入することができました。今回の建物巡りツアーは、昭和の懐かしさを感じるとともに、新たな発見ができるものとなりました。



▲心光寺見学



▲旧山陰合同銀行米子東支店内（左から、外観、店内金庫見学、石炭投入口）

歴史館ライトアップ再開

山陰歴史館（旧米子市庁舎）のレンガ造り風のスクラッチタイルの外観は、市役所・美術館・図書館等の米子の公共施設デザインの原点としてシンボル的存在となっています。庁舎建築の第一人者であった設計者・佐藤功一博士は、躍進する都市にふさわしい左右対称の正面観の堂々たるデザインとして、1階は石積み風に仕上げて基壇、2～3階を通して付け柱が立ち上がる古典様式を基調とするシンボリックな建築としました。

米子城跡をはじめとする米子市の「光」のコンテンツを通してまちの魅力を発信する「Yonago ヒカリ☆マチプロジェクト」などの一環としても、この特徴的な外観がライトアップされ親しまれてきました。照明設備の老朽化により、昨年夏からライトアップが中止されていましたが、今月修理が終わり、夜空に浮かぶ昭和レトロな姿が再び出現しました。

LED照明によりスッキリとした姿をお楽しみください。



ライトアップされた歴史館

旧米子市役所正庁の照明痕跡発見

昭和5（1930）年に完成し、同57（1982）年まで米子市役所として使われた山陰歴史館の建物は、建設当時の米子市の予算の6割に当たる約22万円の巨費を投じたものでした。設計は、早稲田大学大隈記念講堂（重要文化財）などを手がけた佐藤功一です。米子市有形文化財に指定されている旧米子市庁舎の外観と躯体は大きな手を加えずに活用していますが、正面玄関電灯など昭和レトロなしつらえは改修され、失われています。それでも3階の貴賓室には壁にお洒落なブラケットが残っています。こうしたしつらえについては、青焼きの図が残っており、それによると貴賓室天井には六灯シャンデリアがさがっていたようで、その痕跡を天井中央に残る華やかな彫刻飾りに見ることが出来ます（右上写真）。こうした凝ったつくりは貴賓室だけかと思っていたが、そのすぐ下層の2階鉄道展示室の天井照明カバーを外したところ、後付けの天井と照明器具の裏側に貴賓室同様のシャンデリア飾りが残っているのを発見しました。この部屋は市役所の「正庁」となっており、式典を行う格式高い場所であったことから、ここにもシャンデリアが備えられたと思われます。歴史館に残る昭和レトロの痕跡を探すのも面白いかもしれません。

2階正庁跡展示室で発見したシャンデリア装飾→



3階貴賓室シャンデリア飾り



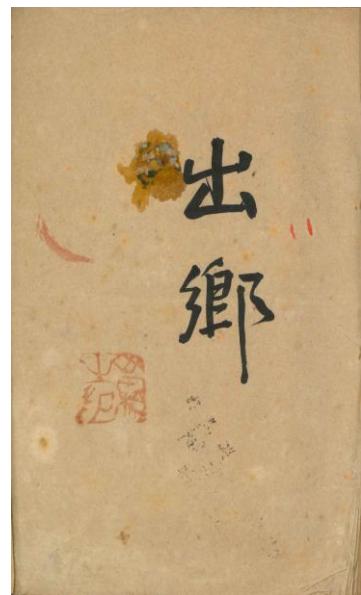
特集展「二・二六事件と西田 税」

令和8（2026）年は、昭和史の大事件である二・二六事件から90年となります。この軍事クーデターに関与したとして、米子出身の思想家・活動家である西田税（1901～1937）が民間人でありながら処刑されたことは、あまり知られていません。この西田について、当館館長であった故杉本良巳は、積極的に研究を行い、その関係で西田家から税の遺品など多数の資料を寄贈いただいていま



西田 税

す。歴史館では、この貴重な資料について、事件から百年あるいは税没後百年を目指して資料整理、研究を行っていきますが、今回は、その道程として、「二・二六事件と西田税」として、米子時代の西田税から二・二六事件にいたるまでのささやかな特集展示を行っています。右の手記『出郷』には、軍人を目指して郷土を旅立つ15歳の早熟な少年・税の天を衝くばかりの霸気が綴られています。



手記『出郷』大正 4 (1915) 年

令和7年度の今後の主な展示予定（令和8年1月以降）

| 事業名 | 内容・観覧料等 | 開催日又は実施期間 |
|---|--|---------------------------------------|
| 常設展 米子城展、昔の暮らし展、 鉄道のまち 米子の歴史展 昭和の学校、弓浜紺展 | 国史跡米子城跡、尾高城跡、鉄道資料、民俗資料、昭和の学校、米子の遺跡など郷土の歴史を通して、人々の暮らしの様子を紹介しています。 【観覧無料】 | 通年・隨時展示替 |
| 企画展 「山陰歴史館から出発進行 ～資料でたどる旅の記憶～」 | 切符や時刻表、ヘッドマーク等の館蔵鉄道資料や写真を展示し、鉄道の旅の歴史を展示 観覧料：300 円 | 令和 8 年 1 月 18 日(日)～ 3 月 29 日(日) |
| 特集展 「二・二六事件と西田 税」 | 二・二六事件から 90 年であることを受け、事件に関与したとして処刑された米子出身の思想家・西田税について紹介します。【観覧無料】 | 2 月 1 日(日)～ 3 月 29 日(日) |

米子市立山陰歴史館

開館時間 9:30～18:00 (17:30までに入館)

休館日：毎週火曜日 祝日の翌日 12月29日～1月3日



〒683-0822 鳥取県米子市中町 20 番地
電話/0859-22-7161 fax/ 0859-22-7160

<https://yonagobunka.net/rekishi/>

E-mail: saninrekishikan@dear.net.jp [編集：中原]